

「oHOHo CYCLE PROJECT」(青山商事株式会社)



本事業は、大阪府をモデル地域とし、生活者、事業者、行政が一体となった持続可能な衣類回収システム「oHOHo CYCLE PROJECT」の構築を目指します。

- 繊維循環に欠かせない「回収」「分別・繊維再生」「設計・製造」「物流」「販売」の各フェーズを並行的に解決するため、連携団体と共に衣類回収システムを構築する。
- 当事業は、民間企業のみではなく、大阪府や各自治体が参画した官民連携事業となります。
- 生活者の「意識変容」や「行動変容」を促進するため、共通のロゴマークを使用することにより、認知拡大を図ります。
- 当事業を契機に11月25日に「サステナブルファッションプラットフォーム協議会」を設立し、持続可能な衣類回収システムを目指します。

事業の全体像

■ 連携パートナー：計11企業

青山商事、Earth hacks、エイチ・ツー・オー商業開発、エイチ・ツー・オーリテイリング、JR西日本SC開発、住友大阪セメント、帝人フロンティア、阪急阪神百貨店、ファイバーシーディーエム、MILKBOTTLE SHAKERS、モリリン

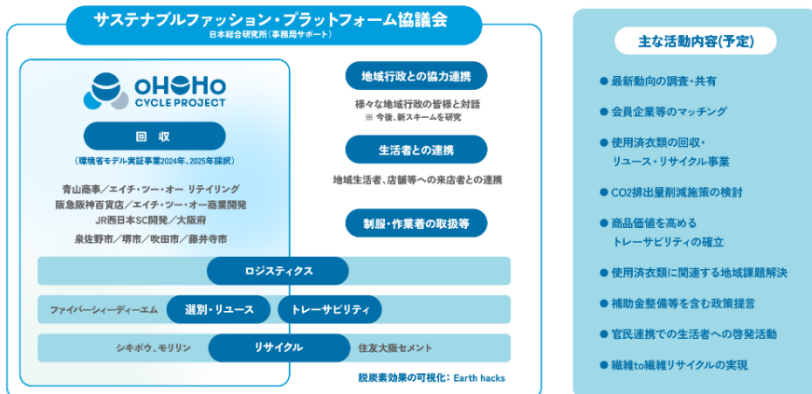
■ 連携行政：計6自治体

大阪府、吹田市、藤井寺市、守口市、豊中市、泉佐野市

■ 本事業における3つの強化項目

- ①生活者参加促進と回収量増のための動機づけ
- ②多様な連携による新たな循環利用モデルの構築
- ③回収に係る物流の実証

繊維製品における資源循環ロードマップ実現に向けた協議会の活動体制(予定)



取組の様子



商業施設等での回収ボックス設置と、梅田駅デジタルサイネージや専用Webサイトによる行動変容の喚起。大阪府民アンケート結果により、当事業の認知度は、約10%を達成。

取組の成果

- ★回収拠点：目標50拠点に対し、76拠点を設置（商業施設、行政庁舎など）
- ★回収量：約1.5ヶ月で4,972kgを回収（リユース85.8%・リサイクル14.2%）
- ★環境効果：焼却処分と比較し、CO2排出量を97%削減
- ★行動変容：「インセンティブ」よりも「利便性」が回収参加の鍵であることを実証
- ★物流分析：個配回収とルート回収の損益分岐点は、月間12 t（大阪府内）



01 生活者の行動変容は「利便性」が最優先

システム設計の根幹は「ごみとして捨てるより手軽」であること。インセンティブはあくまできっかけ。



02 「協調領域」としての連携

自治体の課題（量・人手）を、民間の店舗網で解決する。企業の垣根を超えた共通インフラ化が不可欠。



03 経済的持続可能性の道筋

当面は「リユース」収益＋「個配」物流で黒字化を目指す。ルート回収への移行は月間12トンが分岐点。